

令和 4 年 2 月 7 日

富里市長 五十嵐 博文 様

富里市基本構想審議会
会長 関 谷 昇

富里市基本構想(案)について (答申)

令和 4 年 1 月 3 1 日付け富企第 7 9 号で諮問のあった富里市基本構想(案)について、当審議会において、それぞれの立場や経験を基に慎重に審議した結果、その内容はおおむね適切なものと認めます。

なお、構想の推進にあたっては、下記の事項について十分配慮されることを要望します。

記

- 1 今後進められる成田空港の機能強化は本市にとって重要な契機であり、国内外からの人の流れの増加を、定住人口はもちろん交流人口や関係人口の増加につないでいくことが望まれる。

そのために、新たな人の流れに対応できるよう産業振興や都市基盤の整備を進め、本市の住みよさを一層高めるよう努められたい。

- 2 本市には、地域外にすでに認知されている農産物やイベントが多くあるが、まだ潜在している地域の魅力も多数存在する。

こうした魅力ある資源を再認識した上で、活用・発信していくことで地域活性化につなげていくよう努められたい。

- 3 本計画が策定だけに終わらず、「まちづくりの将来像 (未来の景色)」の実現に向けた施策の実行につながるよう、進行管理として毎年の評価を行い、よりよい施策の検討を継続的に実施されたい。

また、大きな社会情勢等の変化にあっては、当審議会をはじめとした市民の意見を参考にしながら、柔軟な方向性の修正に努められたい。

4 少子高齢化や世帯構造が変化していく中で、複合的な地域課題が発生してきている。

こうした課題に効果的に対応していくためには、従来の縦割りの取組だけでは限界があり、新たに横断連携による体制を確立し、解決を図っていくよう努められたい。

5 本計画を推進するに当たっては、職員においても一層高い意識を持って取り組んでいく必要がある。

そのため、本計画の目指すところや施策を全ての職員が共有し、まさに「心ひとつに」進んでいけるよう、職員の意識高揚を図られたい。

6 本計画策定中に、令和元年の台風被害や新型コロナウイルス感染症の蔓延という、かつてない事態に見舞われた。

こうした事態において認識した本市の課題を整理し、市民とともに地域を守る危機管理体制の構築に努められたい。